

ボローニャ大学協定留学 月例報告書（9月）

芸術文化学科4年 土居優莉

Buongiorno!



みなさまはじめまして。芸術文化学科4年の土居優莉と申します。2022年9月から約1年間イタリアのボローニャ大学に留

学することになりました。私は、高校生の時に行ったオーストラリア2週間の語学研修で初めて日本以外の国に友だちができた異文化に触れたりしたことで、世界には自分の知らないことがたくさんあることを実感し、さらに知りたいと思うようになりました。それに加えて幼い頃から好きな音楽を、その原点とも言えるイタリアで学んでみたかったことや、将来日本のエンターテインメントに関わる職業に就きたいと考えており、新しいものを創り出すことを目指す人間として古くから続く伝統を大切にすイタリアを中心としたヨーロッパの文化を知っておきたいと考えたことがきっかけで留学することを決めました。これから毎月私のボローニャでの様子を少しずつ紹介させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

準備、そして出発

新型コロナウイルスの影響によって留学に行けるかどうかすらわからないまま3年生になり、一時は就職活動に踏み切ったこ

ともありました。しかし多くの先生方や教務・学生室の留学担当の方々、またキャリア支援室の方に相談に乗っていただき、どのような状況になっても冷静に対応できるように自分のこれから先のプランをいくつか作成しました。最終的に2年間の休学が必要になったものの、一番理想に近い形で留学を叶えることができ、協力してくださった皆様に本当に感謝しております。

さて、行くと決まってから半年ほど時間はあったものの忙しい日々を過ごしました。特に約1年間暮らす家を探すことは簡単ではありませんでした。ボローニャ大学には本当にたくさんの学生が通っているため、アパートを見つけることができず予定通りに到着できない学生もたくさんいるようです。また、書類ひとつ用意してもらうのにも予想以上の時間がかかります。新型コロナウイルスの影響もひとつの要因ではありますが、基本的にすべてが日本よりもゆったりとしているので、どのようなことにおいても早め早めの行動を心がけることが大切であると今回改めて感じました。

そして迎えた出発の日。地元のお気に入りのお店でおいしいうどんを食べてから、空港に向かいました。ずっと行きたかったボローニャへの留学がもうすぐそこまで来ているというワクワクと同じくらい、このゲートを超えたらいつも支えてくれる家族や友だちはいない、ひとりでやっていかなければならないんだ、という不安な気持ちが大きくて、思わず涙が溢れてしまいまし

た。みんなからももらった「頑張ってるね」の想いを噛みしめながらボローニャに向けて出発しました。

到着から今日までの1ヶ月

無事にボローニャに到着してから初めの1週間は大学にチェックインをしたり、滞在許可証を申請するための書類を作ったり、イタリア語の授業のクラス分けテストを受けたりと、手続きに追われる毎日でした。その中でも一番初めにしなければならないのが携帯電話のSIMカードを手に入れることです。家から一歩外に出ると携帯電話が使えない状態で街の中心にある携帯ショップまでたどり着くのは本当に大変でしたが、拙いイタリア語で何度も人に尋ねながら、無事にSIMを手に入れることができました。

2週間目からは私立の語学学校に通い始めました。9:30~15:30の計6時間を週に5日通っています。クラスはいつも6人程度で、教室での授業に加えて、毎日みんなでバルに行き行ってコーヒーを飲みながら会話を楽しむ時間があります。また、授業が終わったあとにボローニャにある教会や美術館を訪れたり、レストランに行き行ってランチをしたり、電車で隣町を訪れたりするアクティビティに参加することもできます。私は先日、ボローニャから電車で約30分のところにあるフェッラーラという街に行きました。語学学校でできた友だちと一緒に街を散策しながら絵葉書を買って家族に手紙を書いたり、エステンセ城という古いお城を見たりしました。

一方で、9月の後半からは大学の授業も始まりさらに忙しくなってきました。イタリア語の授業のクラス分けが10月にならないとわからないためなかなか履修を確定

させられませんが、気になるものはすべて1回目の講義に参加してみました。イタリア語で受けるものと英語で受けるものが半分ずつあります。劇場とエンターテインメントの歴史についての授業や、イタリア文化についての授業を取る予定です。イタリア語での授業はまだ理解できないことが多いですが、毎日確実にわかる言葉を増やしてなんとかついていきたいと思っています。



↑ Ferraraにて語学学校の友だちと

ハウスメイトとの生活

ここで、私のハウスメイトとの生活について少し紹介します。私の家にはイタリア人の女の子が2人とスウェーデン人の女の子が1人いて、4人でシェアをしています。このうち私はスウェーデンの方との2人部屋で生活しています。みんなとても優しくわからないことがあったらいつでも親切に教えてくれるので初めてのイタリア、初めてのシェアハウスでの暮らしも安心です。イタリア人の方の1人はいつも夕食を食べるときに声を掛けてくれて、私のイタリア語の練習に付き合ってくれています。また、先日はみんなでティラミスを作りました。材料を集めるところから、いろんなイタリア語を教えてもらいながら作って、みんなで美味しくいただきました。大学の授業に行くとたくさんのイタリア人の

学生がいますが、友だちになってたくさん会話ができるようになるにはもう少し時間がかかりそうです。そのためハウスメイトとの時間は私にとってとても大切ですし、イタリア語の勉強のためだけではなくイタリアでの生活を楽しむことができているのも彼女らのおかげであると感じています。今はただ自分の中にある語彙力でなんとか会話することで精一杯ですが、一生懸命勉強して「Grazie」だけでは伝わりきれない感謝の気持ちや相手に対する思いやりを言葉で表現できるようになりたいです。



↑ハウスメイトと作ったティラミス

人と比べないこと、わたしはわたし

ボローニャに来て約1ヶ月、日々を過ごす中で色々な感情になって色々なことを考えます。語学学校では周りにはほとんどが自分よりもイタリア語が上手で、さらに英語は当たり前に使えます。その一方で私は、イタリア語はもちろんのこと英語すら自信があるとは言えません。しかし語学学校で、間違っても自信がなくてもとりあえず発言する、間違ってしまったもんだかいつも楽しそうなみんなの姿を見て、こんなことで落ち込んでいる場合ではないと思えるようになりました。そのような前向きな気持ちで今一度周りを見渡す

と、みんなただ自分のやりたいことに向かって一生懸命に毎日を過ごしていて、他の人が自分をどう思うか、自分が他の人をどう思うかなどはまったくと言っていいほど考えていないことに気がつきました。夢に向かってまっすぐ進んでいる人はみんな輝いて見えます。私も人と比べることはやめて、目標に向かって一步一步、piano pianoで進んでいこうと思います。

おわりに

SUACから一緒にボローニャに来ている仲間と広場でのイベントに行った時の写真を載せておきます。いつもわからないことがあった時や不安になった時に、そばにいて話を聞いてくれる大切な存在です。これから来る方もみんな揃って10月も元気で過ごせますように。



↑Piazza MaggioreにてSUACの仲間と

最後まで読んでいただきありがとうございました。